

災害医療教育研究センター



センターHP



1. スタッフ

センター長 (教授)

かきおか しゅんじ
笠岡 俊志

副センター長 (副病院長・教授)

田中 靖人

特任助教 1名

看護師 1名

事務職員 3名

2. 特徴

災害医療に関する教育や研究を推進するセンターとして平成30年10月に設置されました。その目的は災害医療に従事する人材を養成するとともに、行政や地域医療との連携、市民への防災教育等を通して災害医療提供体制の発展に貢献することです。センターが担う主な業務は、①高度災害医療人材の養成、②災害医療・医学に関する研究、③地域住民への防災教育、④医療機関の災害医療体制整備の支援、⑤災害発生時の院内対応や被災地へのスタッフ派遣などです。平成30年度から5年計画で文部科学省「課題解決型高度医療人材養成プログラム」に採択された「多職種連携の災害支援を担う高度医療人養成」事業を推進して参りましたが、令和5年度より熊本大学履修証明プログラム「多職種連携災害支援コース」を開講いたしました。さらに、令和4年度から熊本県の補助を受けた「災害保健医療機能分化・連携促進事業」として二次医療圏における災害時の医療提供体制整備の支援を行っています。

3. 診療体制・診療実績

直接担当する診療部門はありませんが、令和4年4月から当センターのスタッフを救急外来に派遣して救急診療の支援を行っています。救急部のカンファレンスにも参加して救急診療に関する助言や意見交換を行っています。

4. 高度先進的な医療への取組

特記事項はありません。

5. 地域医療への貢献

人材養成プログラムの受講生に対する研修会や訓練の他、受講生以外の医療従事者や市民に対しても、WEBを活用したセミナーや公開講座を開催しました。

本院が有する災害医療の情報やノウハウを地域にフィードバックするなど地域医療や地域防災に貢献しています。さらに、防災に関する情報発信をYouTubeで行っています。

令和6年1月に発災した能登半島地震に際して、当センター所属の災害派遣医療チーム (DMAT) 隊員を被災地に派遣して支援活動を行いました。

6. 医療人教育の取組

平成30年度から開始した文部科学省「課題解決型高度医療人材養成プログラム」には総計217名が受講し、令和6年3月までに79名が修了認定を受けています。本プログラムの特徴は「多職種連携の災害支援を担う高度医療人養成」であり、医師会、歯科医師会および行政機関等の協力を得て、超急性期～急性期の支援に加え亜急性期～慢性期で問題となる慢性疾患等を対象とする長期的視野で活動可能な医療チームを構成する多職種の人材 (医師、歯科医師、看護師、薬剤師、栄養士等の医療職や行政担当者等) を養成することです。

令和5年度から開講した熊本大学履修証明プログラム「多職種連携災害支援コース」には医師や看護師をはじめとする多職種の医療従事者35名が受講を開始し、令和6年3月までに5名が修了認定を受けています。

熊本県では平成28年熊本地震や令和2年7月豪雨など甚大な被害に見舞われた自然災害が発生しています。被災県として災害対応の経験を活かしつつ、災害医療に関わる高度医療人材の養成を行っています。

令和5年度は熊本県の補助事業として、有明、鹿本、上益城、宇城、天草、葦北の6つの医療圏を対象に地域医療連携強化事業を推進するとともに、災害医療ロジスティック要員養成講座には31名の関係者が受講されました。

さらに、大学院医学教育部、医学部医学科や保健学科における災害医療の講義を担当するとともに、医学科の臨床実習においてトリアージ実習を担当し実践的な災害医療教育を提供しています。

令和4年度文部科学省「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」の一環として災害現場における医療活動を疑似体験できるVR動画を制作して医学科学生の臨床実習で活用しています。

令和4年4月から大学院医学教育部に「災害・救命医療学講座」が新設され、社会人大学院生1名を受け入れ、研究指導を行っています。

7. 研究活動

熊本地震の経験を風化させないため、科研費や共同研究費を獲得して、災害医学に関する研究を推進し、国内の学術集会(救急医学会や災害医学会など)で発表するとともに論文として公表しています。研究テーマは以下のとおりです。

- 1) 大規模災害の避難者における健康被害の要因解明と新たな提言
- 2) 災害時の洗面所環境・機能確保のための事業継続計画とその実践に関する研究
- 3) 医療施設の医療救護活動における水害対策の高度化に関する研究

8. 令和5年度に開催したセミナーや研修会

1) 災害医療担当者研修会

令和5年度第1回災害医療担当者研修会

医療機関における 災害への備え

熊本県では平成28年熊本地震や令和2年7月豪雨という大災害を経験しました。さらに近年は、国内各地で豪雨や台風による災害が毎年発生しており、災害時に地域における診療機能を維持、また早期回復を図るためには、災害拠点病院を中心とした医療機関間の連携体制を強化するとともに、各医療機関において災害対応力を高めることは喫緊の課題となっています。

そこで、各医療機関の災害への備えを強化することを目的に、災害担当者を対象にした研修会を開催します。

日時
令和5年6月21日(水)
18:30~20:30 (18:15 受付開始)

場所
ZOOMを用いたライブ配信

参加費
無料

定員
100名程度

対象

- 各病院の災害体制整備にかかわる担当者
- 行政機関・福祉施設関係者
- 履修プログラム受講生
- 災害医療に興味のある医療関係者

参加方法
QRコードまたはURLより

趣旨

- 履修プログラム受講生(選択科目:10単位認定)
- 行政機関・福祉施設関係者
- 災害医療に興味のある医療関係者
- 病院の防災業務にかかわる医療関係者
- 災害医療ロジスティクス要員養成講座受講者

場所
旧長陽西部小学校、
旧東海大学阿蘇キャンパスKIOKU

熊本県では平成28年熊本地震や令和2年7月豪雨という大災害を経験しました。さらに近年は、国内各地で豪雨や台風による災害が毎年発生しており、災害時に地域における診療機能を維持、また早期回復を図るためには、災害拠点病院を中心とした医療機関間の連携体制を強化するとともに、各医療機関において災害対応力を高めることは喫緊の課題となっています。

そこで、各医療機関の災害への備えを強化することを目的に、災害担当者を対象にした研修会を開催します。

●開会あいさつ
熊本大学病院
災害医療教育研究センター長 笠岡俊志

●基調講演(30分)
「令和2年7月豪雨災害の医療機関被害と業務継続計画(BCP)に基づく災害への備え」
講師:災害医療教育研究センター 教授 笠岡俊志

●講演(60分)
「災害に強い病院建築を目指して～地震と水害、ハードソフトの工夫～」
講師:清水建設株式会社 設計本部 プリンシパル
日本医療福祉建築協会 理事 山本 重紀

2) 災害医療ロジスティクス要員養成講座

第4回 災害医療ロジスティクス要員養成講座 通信訓練

熊本県では平成28年熊本地震や令和2年7月豪雨という大災害を経験しました。災害時にも地域医療を維持するための医療提供を継続するために求められる後方支援、業務調整を担うロジスティクス強化を目的とし、災害時の情報・資源管理に必要な情報伝達・情報処理・通信機器の使用法を身につけます。特にEMISの使用や衛生電話、トランシーバーなどの通信機器を実際に使用し、災害時に使用可能なスキルを習得します。

講義・演習
「広域医療情報システム:EMIS」
「災害時の通信:災害時に備えてほしい通信機器・通信手段」

日時
①令和5年10月28日(土)
13:00 ~ 18:30 (予定)
②令和5年10月29日(日)
10:00 ~ 16:30 (予定)

定員
60名

参加費
無料

3) 災害医療従事者研修

熊本大学公開講座 令和5年度災害医療従事者研修「避難所アセスメント」 災害時の二次健康被害を防ぐ 避難所環境を学ぶ

熊本県では平成28年熊本地震や令和2年7月豪雨という大災害を経験しました。大規模災害発生時、被災地において健康被害への対応を含む、多様な医療ニーズが発生します。災害時の二次健康被害を防ぐ避難所環境を考へ、効率的な医療支援を行うために適切な情報に基づく支援活動を行うための、情報収集・分析・共有を行うスキルを身につけます。被災地において支援チームとして活動する「災害時保健医療活動」を学ぶ研修会となります。

日時 プログラムは現時点でのものです。
令和5年
11月18日(土)10:00~19日(日)16:30
※南阿蘇での宿泊研修を予定

定員
20名程度(集合型研修)
※参加者については選考する場合がございます

対象

- 履修プログラム受講生(選択科目:10単位認定)
- 行政機関・福祉施設関係者
- 災害医療に興味のある医療関係者
- 病院の防災業務にかかわる医療関係者
- 災害医療ロジスティクス要員養成講座受講者

場所
旧長陽西部小学校、
旧東海大学阿蘇キャンパスKIOKU

1日目(旧長陽西部小学校)

- ・講義:災害医療概論
- ・講義:避難所における健康被害
- ・講義:避難所アセスメント
- ・講義:避難所での診療~災害時診療記録-J-SPEED~
- ・実践研修:避難所アセスメント
- ・実践研修:避難所での診療
- ・実践研修:コロナ禍での避難所運営

2日目(旧東海大学阿蘇校舎、旧長陽西部小学校)

- ・見学実習:熊本地震震災遺構(旧東海大学阿蘇校舎)

4) 災害支援シンポジウム

保健・医療・福祉の多職種連携による 災害支援シンポジウム ~地域と多職種支援チームとの効果的な連携に向けて~

日時 令和6年3月9日(土)
13:00~16:30 (12:30 開場)

場所 ザ・ニューホテル熊本
(熊本市西区春日1-13 JR熊本駅そば)

～パネルディスカッションパネラー～

座長 兼 DMAT 笠岡 俊志
JMAT 西 芳徳 県医師会 防災・救急担当理事
県DPAT 富田 正徳 統括
熊本JRAT 佐藤 亮 事務局長
県介護支援専門協会 土屋 政伸 前会長
県介護福祉士会 石本 淳也 会長
県社会福祉士会 西田 剛 副会長
保健師 松村 玲子 元球磨村保健医療課長

～プログラム～

◎開会(13:00~)
主催者あいさつ 災害医療教育研究センター長 笠岡 俊志
来賓あいさつ 熊本県健康福祉部長 沼川 敦彦 様

◎基調講演(13:10~)
【講演のみ市民公開講座を兼ねています】
テーマ「災害時に多職種が連携するために必要なこと」
講師:熊本県人吉保健所長 服部 希世子 様

◎パネルディスカッション(14:25~)
テーマ「地域と多職種支援チームとの効果的な連携に向けて」

会場定員 150名 (事前申込必要)
(注)同時にWEBライブ配信も行います。
※会場参加の方には災害用保存食を運呈

■参加方法
右のQRコード または当センターのHPがFAXよりお申し込みください。
【申込期限】
令和6年2月28日(水)